

高安詰所だより

第31号

立教187年

7月23日



留学生 in 高安詰所



「こどもおちばがえり」

今年も、そして年祭活動もいよいよ後半に入りました。後半のスタートは「こどもおちばがえり」。関西で「にをいがけ」に歩かせて頂くと、「あー天理なら、子供の頃に行ったことがある。無茶苦茶楽しかったなあ」という答えがよく返ってきます。私は東京に長く居ましたが、これは東京ではまずありえない反応で、いつもすごいなと感心します。「こどもおちばがえり」の話題で打ち解けると、神様の話に繋げやすいのです。おちばに一度でも行ったことがあるのと、全く知らないのでは大いに違います。これも道の先輩方がこつこつと道を付けてきて下さったおかげと頭が下がります。「こどもおちばがえり」に参加したからといって、そのまま教会や道につながる訳ではありません。でもにをいがけ先で、「あーそういういえば子供の頃に行ったことがあるなあ」と、北海道でも沖縄でも、そう言ってもらえる日がいつか来ることを夢見て、今年も「こどもおちばがえり」、頑張りましょう。

詰所行事予定（八月）

～四日 こどもおちばがえり

七日 詰所常会

八日 にをいがけ実動

九～十三日 学生生徒修養会（高校の部）

十四日 おつとめ勉強会

十七日 直轄祭参拝（大教会）

二十日 勤務者修練

二十三日 大教会月次祭

二十五日 月例朝礼

二十六日 本部月次祭・登殿参列

二十七日 修養科第九九六期生修了式

二十七日 修養科第九九九期志願者の集い

三十一日 義晴会長様御命日

修養科生大募集！

第一千期（十月）



年 祭 活 動

陽気ぐらしへ

- 一に、ひながたの道
- 二に、おたすけの日々

初席者 千四百名、修養科生 四百名のご守護を

教祖百四十年祭 お願いつとめ（本部神殿）

（毎週日曜、祝日、二十五日 午前十一時半より）

おつとめ後、おさづけのお取次ぎを頂けます

おやさとのきしん

- ・神苑、境内地 受付（朝つとめ後）
- ・おやさとやかた東棟周辺 受付（八時～十五時）
- ・豊田山墓地 受付（九時～十六時半）

（二日コース） 次回は八月十八日

（テーマ おさづけは有り難い）

（一泊二日コース） 次回は九月十五、六日

（テーマ 教えに基づく生き方）

よふぼく講習会

*詳細、申し込みは天理教ホームページ、若しくは詰所まで



天理大学 「夏期日本語講座」(七月八〜二十一日)

高安話所では天理大学の依頼を受けて毎年、夏休みの約一ヶ月に亘って開講される「夏期日本語講座」受講の海外留学生を受け入れています。メキシコ、台湾、韓国、インドネシア、中国など様々な国からのお道も百名余りですが、「こどもおちばがえり」直前の多忙な時期に、お道もおちばも全く知らない海外学生さんの受入は容易ではなく、たとえばお風呂一つにしても、脱衣所で裸になって大勢と一緒に浴槽に浸かるというような生活習慣はないので、個室のシャワールームや更衣室が不可欠です。苦肉の策として、大学の協力を仰いで仮設のパーティションを設置するなど対応は中々大変です。けれども考えてみれば、海外布教に出かけずとも、海外からこれだけ多くの若者がおちばに帰ってきて下さるのですから、こんな有り難いことはありません。「帰ってくるこどもに満足させずには一人も帰されん」という教祖の親心を我が心として、精一杯のお世話取りをさせて頂いています。

六月のロビーコンサートは圧巻でした。レギュラーメンバーに加え特別ゲストとして、ヴァイオリン、ヴィオラ、そしてトランペットの奏者が揃って出演して下さいました。しかもそれぞれが内

外に名の知れた一流の演奏

家という豪華な顔ぶれで、

そのような著名な方々が高

安話所のロビーコンに出演し

て下さるとは思いもよりま

せんでした。出演の話を知

りつけた高安以外の音楽関

係者の方々からの問い合わせ

せも多く寄せられ、開演前からホールは満杯状態。立ち見もでて

熱気に溢れました。一流ミュージシャン達による迫力の生演奏に、

聴衆は時の経つのも忘れて酔いしれていました。アンコールの拍



手も鳴り止まず、それに応えて即興演奏を何度も熱演下さり、予定時間も大幅に超過するほどでした。中でも若きシンガーソングライターの美しく澄み渡った歌声には、皆が感動し暫し聞き惚れていました。

にをいがけ実動（七月八日）

炎天下の「にをいがけ」は、さすがに厳しいものがあります。でも

その分、やり甲斐もまたあります。



七月から九月にかけて、大教会派遣の部員さんと共に実動する「にをいがけ実動」が全部内教会で今展開されていますが、詰所でも勤務者一同、旬の御用という意識を忘れず勇んでつとめさせて頂きました。

蛍の光

今年も「蛍の光」を存分に楽しめました。近頃では水が



綺麗になってきたせいか、ウテンド橋辺りの「布留川」にも、詰所脇を流れる小川「田村川」にも。年々確実に個体数が増えてきています。けれども蛍の寿命は短く、成虫になってからはほんの一週間ほどで命

の営みを終えてしまいます。その短い命を愛惜しむかのように、

命果てる瞬間まで蛍は力一杯輝きます。逸話篇に、小川の雑魚も

「・・・人間に美味しいというて食べてもらうたら、喜ばれた理で、

今度は出世して・・・」とお聞かせ下さいます。来年も是非、初夏

の詰所で蛍の「命の光」を愛でてあげましょう。

高安詰所モットー

五つ いつものなしかた

六つ むごいことをださぬよう

七つ なんでもたすけやい

八つ やしきのしまりかた

九つ ここでいつまでも

十ど ところのおさめかた

（教祖お言葉）

明るく楽しく暖かい
高安詰所



発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地一

☎0743-630421